


# 鶴崎地域ビジョン会議 通信

第1号

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

## 地域ビジョン会議の目的

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営など諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このような中、市内 13 地域において、地域の代表者等で構成する「ビジョン会議」を設置し、議論を深めてもらいながら、それぞれの地域の特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」をご提言いただきます。

## 第1回鶴崎地域ビジョン会議



■平成 29 年 6 月 5 日（月） 14 : 00~16 : 00

■鶴崎市民行政センター 2F 大会議室

一、顧問紹介

二、議事

1.大分市及び鶴崎地区の現状と市の取組について

①地域の将来人口について

②大分市総合計画について

③地域の現状について

④「地域まちづくりビジョン」（提言書）の検討の進め方について

2.意見交換

三、その他

## 事務局から配付資料の説明

事務局より、今後地域まちづくりビジョンを策定するにあたり参考となる大分市総合計画や地域の将来人口、地域の現状について説明を行いました。

### ◇総合計画

大分市総合計画は、福祉や環境、商工業など、各個別計画の最上位に位置する計画であり、大分市の行政運営はすべてこの総合計画に沿って進められています。

本計画では、大分市がめざすまちの姿（都市像）として「笑顔が輝き夢と魅力

あふれる未来創造都市」を掲げ、その将来像の実現に向け①「健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり」、②「豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり」、③「安全・安心を身近に実感できるまちづくり」、④「にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり」、⑤「将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり」、⑥「自然と共生する潤い豊かなまちづくり」の6つの基本的な政策に沿った各種施策を展開しています。

### ◇将来人口

鶴崎地域は、本市の人口の約 15.7%を占めていますが、平成 52 年には約 12.8%減少すると推測されており、本市全体と比較しても人口の減少率が高くなっています。

昭和 39 年の新産業都市建設指定以降、臨海工業地帯として工業立地が進み、JR鶴崎駅前の国道 197 号沿いを中心に商業集積が進みました。当地区の人口は、昭和 38 年に 2.8 万人であったものが、平成 22 年には約 7.5 万人と 2.5 倍以上に増加しています。新しい時期に造成された住宅地が多く、平成 22 年の人口構成では年少人口の割合が本市全体より高くなっています。

### ◇鶴崎地域の現状について（各種データ）

平成 22 年の人口 74,630 人に対し、就業者数は 35,528 人 47.6%であり、大分市全体の 46.5%を 1 ポイントほど上回っています。これは、平成 22 年の人口構成での年少人口の割合が、本市全体を上回っていることが要因のひとつではないかと考えられます。また、産業別に見てみると、第 1 次産業は、1.0%と市全体の割合と同程度のものですが、第 2 次産業の割合は 14.7%と市全体の 10.4%より高く、第 3 次産業の割合は 29.5%と市全体の 32.8%より低くなっています。これは、地区内に製造業の拠点が多く立地している地区の特徴を表しているものと思われます。



## 意見交換

委員の皆様から自分の地域の強みや弱み、チャンスとなる要因や地域を脅かす要因などの視点で、多くのご意見をいただきました。

・鶴崎には、歴史的に観光資源にないうるものが沢山あります。勝海舟に坂本龍馬、高杉晋作は3回も来ています。この事を検証するのが良いと思います。

・鶴崎地区で取り組んでいる「七輪のまちづくり」と「まちづくりビジョン」はマッチする点があるのか。



・鶴崎の強みは、企業が立地していること。歴史的には、鶴崎踊り。文化的には、大銀ドームやパークスレイスが強みですね。

・鶴崎は、大野川や乙津川があって発展してきた。川は、地域を繋いでいくものだから、上流の戸次・犬飼・三重町と連携しながら発展していくという認識が必要だと思います。



・若い人が、これから鶴崎の街に住んでみようと思う街になるようなビジョンが出来れば良いなと思います。

・大きな建物が欲しい。歴史と文化、いわゆるハコモノ、それを取り巻く交通網の整備、大きなテーマがいくつも含まれていると思います。



・子ども目線の視点も加えていって、小さいところから少しずつ改善していけばと思います。

・子ども達の意識が消防団に向く活動を行っていくと、防災面で将来に向けて考えています。

・点と点でなく各地域の輪を広げていき、連携を大事にしていきたい。連携といったものがキーワードになるのではないかと思います。

